



COC地域シンポジウム

稚内・宗谷の未来と担い手づくりの展望

— 子育て運動の町における力合わせと大学育ち —

執筆者: 米津直希(本学講師)

COC地域シンポジウム開催

9月18日(金)、COC地域シンポジウム「稚内・宗谷の未来と担い手づくりの展望—子育て運動の街における力合わせと大学育ち」を開催しました。

このシンポジウムはCOC事業の一環として取り組まれているもので、今回は「教育」を軸として、地域における大学の役割を考えました。

当日は80名程のご参加をいただき、実り多い会となりました。



学生・卒業生からの報告

最初に、学生と卒業生から報告がありました。

学部3年生の**上浦真之介さん**からは、豊富町での夏休み期間中の学習支援やまちラボでの無料塾の取り組みなど、地域の学習支援について紹介がありました。こうした取り組みに昨年度まで参加していた、卒業生の**江戸勇介さん**(現稚内大谷高等学校教諭)からは、その経験が現職にどのように活かされているかなどについて報告がありました。学部4年生の**白石拓也さん**から、市民第九合唱団とまちづくりについて、ドキュメンタリー作品の撮影を通じた関わりから紹介がありました。



パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、**大島朗氏**(稚内中央小学校校長)から、子育て運動の視点、また、小学校校長のお立場から、大学とのつながりや「まちラボ」についてのお考えなどについてご報告いただきました。**山下優氏**(稚内大谷高等学校校長)からは、高大連携・接続の視点、また高等学校校長のお立場から、大学の役割、大学への期待などについてご報告をいただきました。**遠藤直仁氏**(稚内市教育委員会学校教育課課長)からは、教育行政のお立場から考える大学の役割、大学への期待などについてお話いただきました。また、本学学長、**佐々木政憲**から、大学による地域への貢献、担うべき役割についてお話ししました。

教育の観点から、地域の教育課題に向き合うこと、同時に地域産業の将来を見据えた担い手の育成を行う必要があることなどが確認され、そうした中で大学がどのような役割を果たすべきかが検討されました。

フロアからは、学生の活動に対する激励の言葉もいただきました。



総括

- ① 本シンポジウムでは、学生の活動や大学の考えを周知し、これまでのCOC事業の評価と方向性を確認できた一方、参加者アンケートなどから、まだまだ大学の取り組みが知られていないことが明らかになった。
- ② 今後より地域に目を向けた活動に力を入れるとともに、それを周知することにも力を入れる必要があることが確認された。
- ③ 次年度の全国シンポジウムに向けて、こうした課題にも取り組んでいきたい。

お問合せ先 稚内北星学園大学COC推進委員会
担当 米津 直希
〒097-0013 稚内市若葉台1丁目2290-28
電話 0162-32-7511 FAX 0162-32-7500
E-mail info(アット)wakhok.ac.jp
※(アット)は@に変換してください
URL <http://www.wakhok.ac.jp/coc.html>

